

平成22年8月1日 正式活動スタート

栄養サポートチーム（NST）

☆ 栄養サポートチーム （NST: Nutrition Support Team）とは？

NSTとは、個々の患者さまに合わせた適切な栄養管理（栄養サポート：Nutrition Support）を行うために、専門的な知識や技術を持った医師や看護師、薬剤師、管理栄養士などが一致団結した集団（チーム：Team）です。栄養状態を改善し治療効果を上げていくことをチーム全員でサポートします。

☆ NST構成メンバー

職種	人数
医師（消化器・循環器内科）	2
管理栄養士	1
看護師	6
薬剤師	1
言語聴覚士	1
理学療法士	1
歯科衛生士	1
臨床検査技師	1
放射線技師	1
合計	15



職種の壁を越え、栄養サポートを実施する多職種の15名からなる集団（チーム）で構成されています。専従者は管理栄養士 伊藤 佳奈が担当しております。

☆ NST専門療法士の配置



NST専門療法士
山下美紀枝

メンバーのうち、主任 看護師の山下美紀枝が平成22年度 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 認定試験に合格しました。NST活動が医療の質の向上に繋がるようメンバー全員で日々努力をいたします。

☆ 活動内容



「早期に栄養障害を発見し、個々に合わせた安全で効果的な栄養管理を行う」ことを目標に、個々の患者さまの栄養評価を行い、最適な栄養投与と経路の選択と、必要な投与カロリーと成分を決定します。そして週に一度、チームで症例検討会や回診（ラウンド）を実施しています。嚥下障害や低栄養状態の患者さまを中心に、嚥下機能や栄養状態の評価を行い、身体計測や血液検査をもとに、栄養状態の変化の確認や再評価を行っています。

☆NSTチーム医療で支える摂食・嚥下



【活動報告；52歳女性の脳出血後の後遺症により嚥下障害が出現した患者さまの例】

- 1 介入期間；平成22年8月11日～9月29日
- 2 脳出血で入院され、当初は経鼻経管栄養でほぼ寝たきりの状態でした。
- 3 経口栄養へ移行することを目的として、詳細な嚥下機能評価のためまずは嚥下造影検査を実施しました。
結果：不顕性誤嚥（ムセない誤嚥）を認めました。
- 4 その結果をもとにチームで取り組んだ内容です。（下記 経過表をご覧ください）
- 5 現在は自力にて米飯・荒刻み食を8～10割摂取出来ています。
- 6 このように経口から食事摂取がすすむと共に食べたかった物も食べられるようになりました。
また、表情の変化が豊かになり、病院スタッフや御家族との会話を楽しむ様子もみられています。
日中はリクライニング車椅子へ離床し過すことが可能となりました。
- 7 今回の訓練食の段階的な提供にあたり、各職種等がチームとして知識・技術・情報等を共有するように努め、各専門職が専門性を発揮した結果、良好な食事提供にもつなげることができたと思います。

食種	嚥下機能	副菜加工	液体の食品の対応	訓練と水分補給	その他の食品の対応
①経鼻経管栄養	意識障害により経口摂取困難	—	—	嚥下造影検査にて詳細な評価	—
②全粥ソフト食	摂食嚥下機能に問題あり 液体のものや形のある料理は制限が必要	加工あり ゲル化剤使用	みそ汁、ポタージュスープ類等の液体の食品や料理にはトロミをつけて提供	*食事摂取時の姿勢（ヘッドアップ45° 頸部前屈） *介助方法の伝達（連続嚥下、食事の休憩時や食事終了時はトロミ茶で終わる） *水分にトロミ（ハチミツ状）をつける *一口量の統一（中スプーンへ変更）	*液体の食品や料理は、トロミをつける *乳製品はヨーグルトを提供 *煮物も煮汁等の液体は提供しない *全粥の水分は除く *本人の嗜好とカロリーを考慮したゼリー状の栄養補助食品を提供
③米飯荒刻み食	嚥下機能に多少問題あり	加工あり 一口大にカット	みそ汁、ポタージュスープ類等の液体の食品や料理にはトロミをつけて提供	*ヘッドアップは何度でも可 *自力にて摂取可能であるが、疲労時には介助必要（介助方法に制限は無し） *水分にトロミ（ハチミツ状）をつける	*液体の食品や料理は、トロミをつける *乳製品はヨーグルトを提供 *煮物も煮汁等の液体は提供しない

☆相談方法

栄養に関して疑問やお悩みのある方はご遠慮なく、主治医もしくは看護師までご相談下さい。
NSTによる栄養管理が必要であると判断した患者さまには、週に一度、ベッドサイドへ伺います。



☆最後に



栄養管理やチーム医療の重要性が認識され始めた中、当院では今年2月よりNSTを立ち上げ、NST稼働施設認定および栄養サポートチーム加算申請に向け活動してまいりました。

このたび、当院での活動が評価され、市内で3施設目として申請を受理されました。

患者さまが一日でも早く回復できるようチームを中心に病院全体で支援していきたいと考えております。